

平成24年度下期の肉豚生産出荷動向見通し

1. 全国の動向

① 現状（平成24年度上期、下期の動向）

	24年4～7月 (実績)	24年9月～25年1月
全国と畜頭数（千頭） 前年比（%）	5,387 (104)	7,222 (100)

注1：24年4～7月（実績）は農林水産省統計部「食肉流通統計」

注2：24年9月～25年1月は肉豚生産出荷予測（平成24年8月31日公表）

② 平成24年度下期の見通し

平成24年度下期（10～3月）の全国肉豚出荷頭数は、やや増加（前年同期比103%）する見込み。

※本調査は、事前に実施した都道府県調査による24年度下期の見通しであり、農林水産省生産局畜産部食肉鶏卵課が毎月公表している肉豚生産出荷予測とは異なる。

2. ブロック別の動向

① 現状（平成24年度上期（4～7月）の動向）

【北海道・東北】 前年比 103%

・一部で暑さによる受胎率、育成率の低下等の減少要因があるものの、規模拡大や震災からの回復による増頭が見込まれることから出荷頭数はやや増加。

【関東・北陸】 前年比 103%

・昨年夏の猛暑の影響、中小規模飼養者の廃業や経営縮小等の減少要因があるものの、大規模飼養者の規模拡大や分娩回転率の上昇等から出荷頭数はやや増加。

【東海・近畿】 前年比 103%

・中小規模飼養者や高齢者の廃業、一部で台風の被害等の減少要因があるものの、新規参入や企業養豚の規模拡大、昨年夏の猛暑の影響からの出荷頭数回復等により、出荷頭数はやや増加。

【中国・四国】 前年比 106%

・一部、飼養者の高齢化による廃業等の減少要因があるものの、繁殖技術の向上や事故率の低下、新規参入者の飼養規模拡大等から、出荷頭数はかなり増加。

【九州・沖縄】 前年比 107%

・小規模飼養者の廃業、一部で昨年の猛暑等の天候不順による受胎率、育成率の低下等の減少要因があるものの、口蹄疫からの経営再開や枝肉価格が好調に推移（22年下期～23年上期）したことによる増頭等からかなり増加。

② 平成24年度下期の見通し

【北海道・東北】 前年比 101%

- 増加見込み・・・北海道、岩手、秋田
- 減少見込み・・・福島、宮城
- 前年並み・・・青森、山形

(増加要因)

- ・大規模飼養者の経営規模拡大。
- ・震災からの出荷頭数や繁殖成績の回復。

(減少要因)

- ・暑熱の影響による受胎率、育成率の低下。
- ・飼料価格高騰による小規模飼養者の廃業。
- ・原発事故の風評被害の影響による離農。

【関東・北陸】 前年比 101%

- 増加見込み・・・栃木、群馬、千葉
- 減少見込み・・・神奈川、石川
- 前年並み・・・茨城、埼玉、東京、山梨、長野、静岡、新潟、富山、福井

(増加要因)

- ・大規模飼養者の経営規模拡大や子取り雌豚頭数の増加。
- ・震災の影響からの回復による増加。

(減少要因)

- ・暑熱の影響による受胎率、育成率の低下。
- ・豚価低迷、飼料価格高騰による増産意欲の低下。
- ・農家の廃業または廃業予定。

【東海・近畿】 前年比 101%

- 増加見込み・・・岐阜、大阪
- 減少見込み・・・兵庫
- 前年並み・・・愛知、三重、滋賀、京都、奈良、和歌山

(増加要因)

- ・大規模飼養者の経営規模拡大、事故等の減少による増頭。

(減少要因)

- ・一部の農家における母豚数の減少。
- ・小規模農家の廃業。

【中国・四国】 前年比 101%

- 増加見込み・・・鳥取、岡山、広島、香川
- 減少見込み・・・山口
- 前年並み・・・島根、徳島、愛媛、高知

(増加要因)

- ・大規模飼養者の経営規模拡大、新規参入。
- ・子取り雌豚の頭数増加。
- ・サーコワクチン接種等による事故率の低下。

(減少要因)

- ・ 暑熱の影響による受胎率、育成率の低下。
- ・ 高齢化や飼料価格高騰による増産意欲の低下。
- ・ 大規模飼養者の廃業、規模縮小。

【九州・沖縄】 前年比 108%

○増加見込み・・・熊本、大分、宮崎、鹿児島

○減少見込み・・・佐賀

○前年並み・・・福岡、長崎、沖縄

(増加要因)

- ・ 子取り雌豚の頭数増加。
- ・ 繁殖成績の改善、事故率の低下。
- ・ 口蹄疫被災農家の経営再開による出荷頭数の増加。
- ・ 大規模飼養者層の経営規模拡大。

(減少要因)

- ・ 飼養戸数の減少。

※前年比は各県のアンケート調査から推計

なお、24年度下期の見通しにおいて増減率不明とした6県については、推計値の数値には含まれていない。